

Thème 2

## 教育用ICTを用いて フランス語の口頭能力を鍛える方法

**Jonathan GOUJON**  
Université de Matsuyama  
jgoujon@cc.matsuyama-u.ac.jp

### はじめに

第 29 回関西フランス語教育研究会でアトリエを行うにあたって、フランス語教師の専門性について考察した。周知の事実であるが、外国語としてのフランス語教育 (FLE) の 4 つの柱は聴解、口頭発話、読解、そして作文である。もちろんフランスの社会や文化についての知識も、以上の能力に加えて必要となる。これら全てのコミュニケーション能力をよどみなく教えることができるというのが、フランス語教師にとっての理想であるのは言うまでもないのだが、残念ながら実際は、それほど簡単にはいかない。特に聴解と口頭発話を教えるのは困難であると言われる。また、日本人講師からも、オーラルコミュニケーションの授業に対して少々不安を持っているという声がしばしば聞かれる。そこで、便利な教育用 ICT を使った聴解活動と口頭発話活動の作成方法をここでは紹介したいと思う。

### 1) 聴解の活動

#### A) 学習者の外国語での聴解力

« La compétence de réception orale est de loin la plus difficile à acquérir et c'est pourtant la plus indispensable. Son absence est anxiogène et place le sujet dans la plus grande insécurité linguistique. » (Porcher, L.1995)

Louis Porcher によると、聴解力の欠如は学習者の不安を引き起こす。この問題の原因は学習者の音韻体系にある。学習者は自らの音韻体系に支配されているため、通常、音声聴覚の技能に関しては、習ったものしか身に付けることができない。そのため聴解の授業では音の聞き分けの練習をひんぱんに行う。ただし、聴解力は音の聞き分けの練習だけでは充分ではない。学習者が声、話者の数、間のおいてある箇所等を理解できるように練習させる必要がある。また、多角的な理解を育むための方略を学習者に紹介しなければならない。

いずれにしても、指導者は分かりやすい目標を定めた後に明確な課題を与えるべきである。そこで、学習者の興味を引くために、また音声資料を分かりやすく提示するために、聞き取り練習を始める前の活動 « activités de pré-écoute » を導入することが、Jean-Michel Ducrot によって勧められている。そのやり方は多様であり、

指導者は、自らが決めた活動や資料に適した導入を選択することができる。例えば、様々な方法で資料、テーマや場面設定等を紹介したり、ブレインストーミングで学習者の知識を引き出したりすることが可能である。この導入の後、聞き取り練習に入ることができる。

### B) 聞き取りのタイプ

Emmanuelle Carette は、学習者は、聴解力を伸ばすために、目的に応じた様々な聞き取りの方法を習得すべきだと述べている。こうした理由から、聞き取り練習は以下の4つのタイプに分けられる。なお、聴解練習の手順は、要点をとらえるための聞き取りから細かく理解するための聞き取りへと段階的に進めていく。

まずは「一度目の聞き取り」« écoute de veille » で学習者の注意を引く。次に、「全体の聞き取り」« écoute globale » で全般的な意味の把握をねらう。

その後の「選択的聞き取り」« écoute sélective » では、必要な部分を選択して聞き取ることをねらいとする。最後に、「詳細の聞き取り」« écoute détaillée » では、学習者が細かい部分まで聞き取って理解できることを目指す。勿論、音声ファイルを必ず4度繰り返すべきだという訳ではない。音声を流す回数は難易度と目的に合わせて決定する。ただし、音声ファイルを流すと同時に学習者の口頭能力を深めさせるためには、様々な課題を与えることが、回数を問わず必要となる。

### C) 聞き取りの課題

Christine Tagliante は、課題を選択回答式と半自由回答式と自由回答式の3つに分けている。選択回答式の課題とは選択問題、問いと答え等を結びつける問題、空所補充問題、並べかえ問題等である。半自由回答式の課題はキーワード探し、5W・1Hを答える問題、表を埋める問題等である。自由回答式の課題とは自由に回答させるタイプの問題である。自由回答式の課題は聴解力だけでなく産出的言語能力をも喚起するが、そのような課題を聞き取りに取り入れると効果的な学習者の聴解力の向上が期待できるだろう。

## 2) 口頭発話の活動

### A) 学習者の外国語での口頭発話

外国語の口頭発話を初めて試みる学習者は、「言ってみよう」という気持ちと共に単語を繰り返す。すなわち、最初から単語の綴り方や意味や発音規則を理解しているわけではないのである。学習者は勉強を続けていく内に、徐々に暗記した音声を上手に繰り返すようになる。そして、音素や書記素に関心を持っていく。これが音声から文字に移行するステップである。このようなステップは、産出的言語能力を身につける上で大切な過程である。

Isabelle Gruca と Jean-Pierre Cuq は、学習者が外国語口頭発話に挑戦したがる傾向を効果的に利用して活動を進めている。

## B) 口頭発話の活動の手順

口頭発話の活動は学習者を自立させることを目指して、次のような手順を進める。指導者は、学習者が場面設定の中の「Je」から、実世界の「Je」へと移行できるように導く。そして、学習者の口頭発話が場面設定に適していることを確認しながら、少しずつ場面設定を複雑にしていく。こうした手順を踏みながら、学習者のディスコース能力・言語構造的な能力や社会文化的知識を深めさせることも大切である。このような手順に適した口頭発話の活動があるので、以下、それを簡単に紹介する。

## C) 口頭発話の活動の種類

具体的に述べると、口頭発話の活動は、口頭のやり取りとモノローグの2つに大きく分けられる。口頭のやり取りには「自然会話」 « oral spontané » や目的を達成するための必要最小限の会話やロールプレイ等がある。モノローグには絵・記事・本・映画などの描写、活動や体験の語り、テキストの音読等がある。授業でこうした様々な活動を行う度に、間違いなく学習者の口頭発話能力は向上する。そこで、下記のような ICT を活用すれば口頭能力に関する指導がさらにやりやすくなる。

## 3) 教育用 ICT の使用

### A) FLE 専門サイト

FLE 専門サイトには、様々な音声資料やビデオが掲載されている。

一つ目は Jean-Michel Ducrot が立ち上げたサイトである。

<http://insuf-fle.hautetfort.com/activites-ludiques/>

このサイトには多様なテーマの項目があり、それぞれの項目ごとに聞き取り練習のための音声資料とビデオが豊富に取り揃えられている。Jean-Michel Ducrot によると、在ギリシャフランス大使館が主催した、優秀な参加型サイトのコンクールで、このサイトは2010年に大賞を受賞したそうである。

二つ目は Centre International d'Antibes が立ち上げた FLE に関する電子マガジンである。

<http://www.cia-france.com/francais-et-vous/index.html>

「Sous le platane」の項目では、ヨーロッパ共通参照枠 (CECR) のレベルを参考にした多様なレッスンプランと活動が提供されている。

三つ目は語学学校 Azurlingua が立ち上げた「Bonjour de France」である。

<http://www.bonjourdefrance.com/>

この電子マガジンにも多様なレベルに応じた音声資料と聞き取り練習がある。

### B) ダウンロードヘルパー [www.downloadhelper.net](http://www.downloadhelper.net)

残念ながら、教室ではインターネットに接続できなかつたり、あるいは、音声資料がインターネットから消えていたりする場合もあるため、授業のためにせっかく選んだ音声資料が突然使えなくなる恐れがある。そのような問題を防ぐためには、ダウンロードヘルパーというオフィシャルなソフトウェアを使って、音声資料をダ

ウンロードするとよい。なお、Dijon 大学区はダウンロードヘルパーの利用に関して、音声資料やビデオの著作権を守ることができるかどうかを検討した。その結果、製作者の側からの許可があれば、ダウンロードして授業で使うことができるという結論に至っている。ちなみに、前述の全てのサイトには、フランス語教師が教材を使うために「INSUFLE... Insuffler des idées, offrir des documents aux professeurs de FLE d'ici et d'ailleurs...」や「Bonjour de France est un « cyber-magazine » éducatif gratuit contenant (...) des fiches pédagogiques à l'attention des enseignants de français langue étrangère (FLE).」、又は「Les professeurs y trouveront des ressources pédagogiques pour la classe : sous le platane.」という許可がおりている。

こうして使いたい音声資料のダウンロードができたとしよう。次なる問題は資料の難易度である。面白い音声資料は、難しすぎて利用し辛いという場合が多々ある。こうした場合には、学習者の難易度に合わせた編集が必要となる。

### C) オーダシティ <http://audacity.sourceforge.net/?lang=ja>

学習者の聴解力を鍛えるために見つけた音声資料は、行いたい授業のテーマや教えたい言語活動に見合っていない、早口だったり、言葉が多かったり、音声ファイルが長過ぎたりする場合がある。そうした際には、オーダシティで簡単に編集ができる。再生・一時停止・停止・コピー・貼り付け等々の機能ボタンで編集した上で、聴解の授業で音声資料を使うことができる。

オーダシティには録音ボタンも付いているので、授業中に学習者に与えた口頭発話の課題を録音させて活用することが可能である。

口頭発話の活動にオーダシティを活用する利点はたくさんある。学習者はコンピュータ室で授業を行うので、普段とはちがった環境でフランス語を学ぶことができ、課題を達成するために企画の立案や時間管理を学ぶこともできる。さらに、自分の発話したものを録音し、満足するまで何度も修正して自分の納得したものを教師に提出するので、自己評価もできる。

また、指導者にとっても、学習者が録音したものを後から分析して修正することができるので、すなわち、焦らず採点ができるので、成績をつけやすくなる。

### おわりに

今回の論考でオーラルコミュニケーションの教育法を優先したのは、口頭能力の取得ならびにそのための教育が大変難しいからに他ならない。とはいえ、論考中で紹介した、FLE 専門ウェブサイトの教材を基に、各ソフトウェアを使用して音声資料をダウンロードし編集すれば、授業の目的に沿った教材が格段に作成しやすくなる。

更に、オーダシティを活用して口頭発話の活動を行うことには、学習者にとっても指導者にとっても大きなメリットがある。指導者はソフトウェアを完全に操作出来なくても、口頭発話の活動に気楽に用いることができるのである。というのも、Isabelle Barrière が言うとおりの、学習者は指導者よりもコンピュータに関する知識

に優れている場合が大半なので、指導者が操作に困った際には、学習者の知識をどんどん借りてよいのである。指導者は学習者に助けを求めることに抵抗があるかもしれないが、そうすることで、学習者は ICT を使用して教育を受けることができ、指導者も定めた目的を達成できるので、双方にとってプラスになる。

私自身、第 29 回関西フランス語教育研究会でアトリエを行った際、参加者にオーダシティの「早口をゆっくり再生できる」という大変便利な機能を教えてもらった。フランス語教師の私たちは FLE のプロである一方で、ICT の素人であるケースがあるため、遠慮せず学生と ICT の知識を交換しながらフランス語を教えていけば良いだろう。

### 参考文献

- ACADEMIE DE DIJON, Service d'économie et de gestion. (Consulté en 2015)  
<http://economie-gestion.ac-dijon.fr/transfert/IMG/pdf/DownloadHelper.pdf>
- BARRIERE, I. EMILE, H. GELLA, F. (2011) *Les TIC, des outils pour la classe*, PUG, Grenoble.
- CARETTE, E. (2001) « Mieux apprendre à comprendre l'oral en langue étrangère » in *Le Français dans le Monde. Recherche et application*, CLE International, Paris.
- COSTE, D. NORTH, B. et TRIM, J. (2001) *Cadre européen commun de référence pour les langues*, Conseil de l'Europe.
- CUQ, J-P. et GRUCA, I. (2008) *Cours de didactique du français. Langue Étrangère et seconde*, PUG, Grenoble.
- DUCROT, J-M. *L'Enseignement de la compréhension orale : objectifs, supports et démarches*. (Consulté en 2015) [edufle.net](http://edufle.net)
- LHOTE, E. (1995) *Enseigner l'oral en interaction. Percevoir, écouter, comprendre*, Hachette, Paris.
- PORCHER, L. (1995) *Le français langue étrangère*, Hachette, Paris.
- TAGLIANTE, C. (2006) *La classe de langue*, CLE International, Paris.
- 吉島茂・大橋理枝(訳), (2004)「欧州評議会, 外国語教育〈2〉外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠」, 東京 GOETHE INSTITUT・朝日出版社, 東京.